

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2018 / 6

不安を抱えるお母さんとともに

〈港北ひまわり会〉

地域活動ホームとも

だちの丘の訓練室では、保育の準備が行われていた。準備をしているのは地域訓練会「港北ひまわり会」の協力者と保育マネジャー。

この日は、新年度が始まって二回目の保育の日。春休みがあけて、久しぶりに参加する子

もいる。やがて、次々に訪れるお母さんと子どもたち。協力者と保育マネジャーは「リュックを背負って、がんばって歩いてきたんだね」「しばらく会わない間にお兄さんになったね」「このシャツとっても似合っているよ」と声かけしながら出迎える。

訓練会でよく見かける朝の一コマだ。

保育マネジャー

港北ひまわり会の保育部では、先輩お母さんが保育マネジャーという役割を担っている。

現在、保育マネジャー

として活躍しているのは、五月女由美さん。役を引き受けて二年目になる。自身のお子さんが、港北ひまわり会の保育部出身で、現在は青年部に所属している中学三年生。

保育マネジャーの役割を置いたのは、十五、六年前から。これまで

数名のお母さんたちが、バトンを繋いできた。保育マネジャーの役割は多い。まずは、協力者とともに保育部の活動に入る。活動の中で、子どもたちの成長を見守る。次に、保育部の活動のために様々な調整をすること。

保健師さんなどに紹介されてくる見学者の連絡調整なども行う。そして、不安を抱えているお母さんに寄り添うこと。さりげなく話を聞き、自身の経験を話

し元気づけることも。普段、他の先輩お母さんとも、若いお母さんの相談にのっている。しかし、保育の時間に常に保育マネジャーがいるのは心強い。

五月女さんは、「実

は家に持ち帰ってやる調整ことも多くて大変なこともある。それでも、小さいお子さんに向き合うお母さんたちのためにも保育マネジャーが必要で、大切な役割だと思っている。自分が保育部にいたときも本心に助けられた」と話す。

保育マネジャーの存在 「入会当初は漠然と不安を抱えている。その時に『大丈夫』と言ってくれる心強さがある」「どん底に落とされた気持ちで活動に来ていた時に支えてくれたのは、同じ境遇を乗り越えてきた保育マネ

ジャー。心のよりどころだった」「保育部で同級生ばかりだと、少し先のこともわからない。保育マネジャーがいると、今何に悩んでいるのか悟ってくれて、何のテーマの勉強会がよいのかも教えてくれる」と、会のみなさんは語る。そして、協力者も「保育マネジャーは、協力者とは少し役割が異なり、必要な存在」と話す。



お帰りの会のお楽しみ、パネルシアター！

望遠鏡

障害者差別解消法が施行されて二年が過ぎ、昨年内閣府で行った調査によると差別解消法

が施行されたことを二割強の人が知っていると答えたという調査結果が出た。数字的には少ないように思えるが、広報活動などを継続的に行っていけば少しずつ広がっていくと思う。

大事なのは差別解消法をただ知るだけではなく、理解に繋げていけるかが重要ではないだろうか。それには、子どものころから障害児も健常児も分け隔てなく同じ環境で勉強したり、遊んだり、喧嘩したりする。共に学びあう統合教育の理念が必要。また、自然に触れ合うことによって障害者への理解が徐々に深まっていくし、それが出来て初めて差別解消につながるのではないだろうか。

(横浜市脳性マヒ者協会)

松島 雅樹

平成三十年度 障害者支援センター事業と予算

平成三十年度横浜市
社協障害者支援セン
ターの予算総額は、約
三十三億六千万円余
で、団体数の減少によ
る助成費の減額によ
り、前年度から約六千
万円（二%弱）の減と
なっている。主な事業
概要は次のとおり。

今年度は、①地域に
おける障害理解の推進
②障害者後見の支援制
度の推進③横浜あゆみ
荘のサービスマン・運営の
更なる向上の三点を重
点取組とし、関係団体・
区社協などと連携しな
がら積極的に取り組む
とともに、「よこはま
障害者共同受注総合セ
ンター」の更なる発展
や障害者団体部会にお
ける啓発リーフレット
活用などの取組を行う。

また、運営費助成を
行っている事業者・団
体への支援について、

これまでの関係性を大
切にしつつ、事業に対
するガバナンスとコン
プライアンスの意識を
持って業務を遂行する。

障害理解の推進
区社協と協働して地
区社協などの地域団体
による障害理解のため
の講座に対し、障害者
家族を講師として紹介
するとともに、講師謝
金の助成など開催支援
を実施する。

また、障害児者が地
域で安心して暮らして
いくために、障害者や
家族が主体となつて、
区社協などとの連携に
より地域生活に関わる
関係機関や市民への啓
発などを行う「セイフ
ティーネットプロジェ
クト横浜」支援を進め
る。

後見的支援制度の推進
推進法人としての本
会は、市全体における

本制度の推進、運用に
関する総合調整を図る
とともに、区社協や地
域ケアプラザなどの
連携を通して制度周知
などを行い、「身近な
見守り」機能の充実と
権利擁護の推進に継続
的に取り組む。

**横浜あゆみ荘の
サービスマン・運営の向上**
平成三〇年度は第三
期指定管理事業者とし
て三年目を迎え、横浜
市による第三者評価が
実施される。

様々な障害児者とし
ての家族に安心して利用
いただけるよう、今期
の受託にあたり提案し
た取組の実施状況を点
検するとともに、レス
トランとの連携でサー
ビスの向上に努める。

受注センターわーくる
市内の様々な企業・
団体などに対し、障害
者の日頃の活動への理
解を図りながら、更な
る受注開拓に努めると
ともに、登録事業所の
受注支援を行うなど更

なる発展に向け取り組
む。

なる発展に向け取り組
む。

事業名	予算額(千円)
地域訓練会運営費助成事業	85,287
地域活動ホーム事業	506,783
地域活動支援センター作業所型助成事業	2,104,638
グループホーム助成事業	90,963
販路拡大事業	6,656
家庭介護事業	2,547
研修事業	1,190
福祉団体活動支援事業	3,000
地域活動支援事業	17,380
療育検診活動事業	614
啓発活動事業	2,907
調査研究事業	479
人権擁護事業	2,950
助成団体監査事業	3,800
作業所等賠償責任保険事業	2,560
セイフティーネットプロジェクト横浜支援事業	1,703
障害者後見の支援事業	200,923
よこはま障害者共同受注総合センター事業	18,700
横浜あゆみ荘事業	236,504
その他	74,301
合計	3,363,885

地域訓練会助成事業
障害児の保育やグ
ループ活動などの場
ある地域訓練会の運
営を支援し、活動費を助
成する。併せて、関係
機関や障害児家族に対
し訓練会の周知に取組
む。

**地域活動支援センター
作業所型助成事業**
地域活動支援セン
ター作業所型の運営を
支援し、運営費を助成
する。

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

人権擁護事業
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

地域活動ホーム助成事業
障害児者の地域活動
の拠点である機能強化
型活動ホーム二十三か
所の運営を支援し、そ
の運営費などを助成す
る。

グループホーム助成事業
障害者が地域で共同
して自立した生活を送
る場であるグループ
ホームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

人権擁護事業
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

のモニター活動を他
機関と連携し実施する。

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

人権擁護事業
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

**地域活動支援セン
ター作業所型助成事業**
障害児者の人権が生
活の様々な場面で確立
していくよう、モニター
活動などの充実を図
る。また、グループホ
ームの運営を支援し、
運営費などを助成する。
助成予定…七団体

重症心身障害児者の進路と生活支援を考える懇談会開催

標記懇談会（医療・福祉・教育関係者二十三名参加、座長・日浦美智江氏（社福）訪問の家事理事）が去る三月十七日に開催された。通算二十一回目。

■医療的ケアを必要とする人の増加

近年、呼吸器等を使用する超重症の子どもや、加齢により医療的ケアが必要な方々など「障害の重度化」、「医療的ケアが必要な人の増加」傾向が顕著だ。

現場での支援を充実するには、医療職等の配置等、事業所側の努力だけでは厳しく、人材確保の経費と育成の両面から方策をたてる必要がある。

■事業所や親の会から

多機能型拠点や生活介護事業所関係者からは、利用実績による一律の報酬の仕組みだけ

では施設運営が厳しい現状が次々と語られた。

「重心の施設・事業所の経営面が厳しいことは大変心配だ。進路対策研究会等の調査（表①参照）により、ニーズは明らかになっている。事業所の努力に任せるのではなく、

横浜市には現場を支え、増やしていく仕組みを考えてほしい」と親の会（横浜重心グループ連絡会「ばざばネット」）の下山氏は語る。

■地域生活を

支えるための医療連携
重心医療の専門機関・横浜療育医療センター・甲斐センター長

は「急性期病院との連携とともに、地域の医師会等との連携を強め、役割分担が出来るよう重心医療の体制を確立していきたい」と語る。みどりの家診療所の

■国・市の動向

三宅所長も、「地域では障害者医療の担い手はまだ少ない。重心医療を地域へ広げていくためにも、多機能型拠点等重心医療の専門機関を、行政がしっかりと支えてほしい。また、在宅医療の「要」は緊急時の入院治療の保障だが、特に北部エリアでは重心者の入院先がなかなか見つからないことが大きな課題だ」と語る。

■「共に生きる」を

テーマに前進を

座長の日浦氏は、「地域生活とはそこで生きているというだけでなく、社会参加、年齢相応の社会体験をすること。重心の人の支援には、医療・福祉・教育の連携はかかせず、横浜市に「協議の場」が出来ることによって大きく前進できるとよい。是非現場を良く知る人達を入れていただきたい。

そして、『障害者』というとらえではなく、『○○さん』と一緒に生きる…という心が沢山のの人に生まれる横浜になるよう、思いを一つにして進めていきたい」と最後にまとめた。

※コーディネーターの具体的役割：風邪の予防接種などの場合に、主治医以外でも、医療的ケア児・者の対応が可能な地域の医療機関を案内したり、医療・福祉及び教育などの多分野にまたがる支援を調整するなどの役割を担います。

表① 平成29年度 特別支援学校・養護学校肢体不自由課程 重度重複児童生徒数・医療的ケア児童生徒数【居住区別】

平成29年度 時点の学年	高1～高3		中1～中3		小1～小6		合計	
	重度重複	要医療的ケア	重度重複	要医療的ケア	重度重複	要医療的ケア	重度重複	要医療的ケア
ブロック (居住区)								
東部 (鶴見、神奈川、西)	28	12	23	9	47	24	98	45
西部 (保土ヶ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷)	58	20	44	21	82	36	184	77
南部 (中、南、港南、磯子、金沢、栄)	31	19	41	16	86	39	158	74
北部 (港北、緑、青葉、都筑)	36	18	61	29	78	31	175	78
合計	153	69	169	75	293	130	615	274

* 重度重複・・・重症心身障害児の認定を受けている者。身障1種1級または、2級と療育手帳A1、A2の両方の手帳を併せ持っている者。療育手帳はないが、明らかに重度の知的障害があると思われるもの。(意思の疎通が難しいなど)
* 医療的ケア・・・医療職でなければ対応できない行為がある者。

表② 厚生労働省 平成30年2月5日「平成30年度障害福祉サービス等報酬改定における主な改正内容」抜粋資料

医療的ケア児者に対する支援の充実

- ▶ **看護職員加配加算の創設**
一定の基準を満たす医療的ケア児を受け入れるために看護職員を加配している場合に、新たな加算として評価する。
- ▶ **医療連携体制加算の拡充（通所支援のみ）**
医療的ケア児の支援のため、外部の看護職員が事業所を訪問して障害児に対して長時間の支援を行った場合等について、新たに評価する。
- ▶ **居宅訪問型児童発達支援の創設【新サービス】**
医療的ケア児等であって、障害児通所支援を利用するために外出することが難しく困難な障害児に対し、居宅を訪問して発達支援を行う。
- ▶ **送迎加算の拡充**
送迎において喀痰吸引等の医療的ケアが必要な場合があることを踏まえ、手厚い人員配置体制で送迎を行う場合を評価する。
- ▶ **福祉強化短期入所サービス費の創設**
医療的ケアが必要な障害児者の受入れを支援するため、短期入所の新たな報酬区分として「福祉強化短期入所サービス費」を創設し、看護職員を常勤で1人以上配置すること等を評価する。
- ▶ **常勤看護職員等配置加算の拡充**
医療的ケア児を受け入れるために看護職員を2名以上配置している場合を評価する。
- ▶ **要医療児者支援体制加算の創設**
医療的ケアを必要とする児者等、より高い専門性が求められる利用者者を支援する体制を有している場合を評価する。
- ▶ **医療・保育・教育機関等連携加算の創設**
医療機関、保育機関等と必要な協議等を行った上で、サービス等利用計画を作成した場合に、新たな加算として評価する。

【障害児向けサービス】
▶ 児童発達支援
▶ 放課後等デイサービス
▶ 福祉型障害児入所施設
▶ 居宅訪問型児童発達支援【新サービス】

【夜間対応・レスパイト等】
▶ 短期入所

【障害者向けサービス】
▶ 生活介護

【支援の総合調整】
▶ 計画相談支援
▶ 障害児相談支援



わいわいクラブ (泉区)
安藤知香さん
茨木貴さん



完成したストールを手に得意顔の安藤さん

わいわいクラブ (地域活動支援センター作業所型・泉区) に通所している安藤知香さん (二十五歳) と茨木實さん (五十三歳)。手芸作品製作やポステイングなどの仕事も一所懸命だが、好きなことをして趣味を楽しんでいる。

ベーターベンに挑戦
安藤知香さんは学生の頃から始めた好きなことがある。機織りとピアノだ。

機織りは特別支援学校高等部の作業で出会

い、母と一緒に先生宅に月一回通っている。難しい糸の色の組み合わせも一瞬で選び、プレゼント用には相手の好みに合わせて色を選ぶ。一つの作品を仕上げるのに二、六か月かかるという。昨年十月、川崎で開催された『きらめきアート展』にも出品。職員は「色彩感覚が素晴らしく、作業のビーズ作品にはいつも驚かされている」と話す。

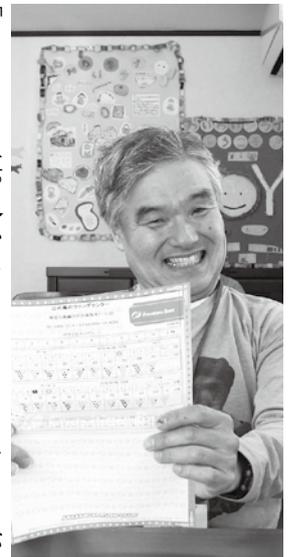
もうひとつはピアノ。中学生の時から教室に通い始め、現在も月に一、二回通っている。楽譜の音符(♪)はわかりやすいように「ドレミファ・・・」とカタカナに変換し、片手ずつ先生と一緒に弾いて曲を覚えていくという。初の発表会の曲は

「さらさら星」。今、レパートリーは先生との連弾も含めて十七曲。今年の発表会では「喜びの歌」を披露した。次回に向けて先生との連弾でやはりベーターベンの曲を予定。

外出がきっかけ 広がる趣味

茨木實さんの楽しみは週末の外出。実家にいる頃は、外出することとは少なかった。約八年前、グループホームへ入居。ホームや作業所型の職員の声掛けをきっかけに週末の外出を楽しむようになった。

月二回はガイドヘルパーと一緒に外出。横須賀や江の島、海老名に行ったりボーリングや映画を楽しんでいる。ボーリング歴は約十年。行くと必ず二ゲームは投げる。二〇〇ス



ボーリングのスコア表を手に笑顔の茨木さん

コアを出すことが今の目標だ。映画はアニメや刑事作品がお好み。ホーム職員の支援も受けながらインターネットで映画の開始時間を調べるなど、事前準備も怠らない。映画館で予告のチラシを持って帰り、次は何を観よう? と悩む時間も楽しいという。

今ではひとりでバスや電車に乗って外出することも多い。外出先ではコーヒーを飲みながらゆったり過ごしたり、映画を観たり。職員は「外出するようになって、實さんの生活の幅はとて広がったと思う。趣味の充実が實さんの自信につながり、わいわいクラブでの活動も以前より積極的になった」と話す。

3枚つづりのコミュニケーションボード

あめのひの もちもの

 かさ Umbrella	 タオル Towel	 くつ下 Socks
-------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

オリジナルコミュニケーションボードとはイラストを組み合わせるオリジナルのボードを作成できるシステム。イラストをダウンロードすることも可能。
●問い合わせ: セイフティネットプロジェクト横浜事務局 (横浜市社会福祉協議会障害者支援センター)
☎045-681-1211 fax045-680-1550
HP: <http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/safetynet/safetynet.html>

自閉症や知的障害のある方の中には、絵や写真を使うことでコミュニケーションがスムーズになる方がいます。

6月は梅雨の時期。今回は『雨の日の外出』時に役立つオリジナルコミュニケーションボードを作成しました。

雨の日、お出かける前に活用してはいかがでしょうか?

二百種類以上あるカードを組み合わせて、暮らしの中の様々なシーンで是非ご利用下さい。詳しくは「セイフティネットプロジェクト横浜」で検索ください。

つくってみて! つかってみて!
コミュニケーションボード
雨の日の外出

た。雨の日、お出かける前に活用してはいかがでしょうか?

オリジナルコミュニケーションボードとはイラストを組み合わせるオリジナルのボードを作成できるシステム。イラストをダウンロードすることも可能。
●問い合わせ: セイフティネットプロジェクト横浜事務局 (横浜市社会福祉協議会障害者支援センター)
☎045-681-1211 fax045-680-1550
HP: <http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/safetynet/safetynet.html>

地域の人と暮らしを支える仕組みを目指して ～障害者後見的支援室の取り組み～

各区の後見的支援室では、地域の人たちの力も得て、障害のある人の地域生活を支える取り組みを進めている。今回は「せや障がい者後見的支援室 まる座（※1）」を紹介する。

この制度を地域に広げていく役割の担当職員は川名さん。障害者支援に携わる中で、つ

また、一人暮らしの障害のある方。雪の日に、家の前で転んでしまった。何とか家に入ったが、電話で助けを呼ぼうと思っても全く動けない。大きな声で何度も叫んだところ、隣の家の人が気づき、救急車を呼んでくれたこともあった。

川名さんは「障害のある人の地域生活を支援者だけで支えていくには限界がある。同じ地域に住む人たちの力も借りながらチームで支えていく仕組みを作っていく」と語る。

「地域への働きかけ」後見的支援室では地域へどのように働きかけていくかを検討した。区社協やケアプラザに相談し、地区社協や民児協、地域福祉保健計画（※2）のエリアなどへの働きかけを始めている。

昨年度は、区社協主催の交流学習会やケア



左から、マネジャー稲垣さん、サポーター福島さん、責任者大塚さん、サポーター本多さん、担当職員川名さん

も悪く、それができなくなつた」と語りはじめた。訪問した地域の人は、家族のSOSを受けとめ、障害福祉関係機関に相談。本人への支援が始まった。

また、一人暮らしの障害のある方。雪の日に、家の前で転んでしまった。何とか家に入ったが、電話で助けを呼ぼうと思っても全く動けない。大きな声で何度も叫んだところ、隣の家の人が気づき、救急車を呼んでくれたこともあった。

川名さんは「障害のある人の地域生活を支援者だけで支えていくには限界がある。同じ地域に住む人たちの力も借りながらチームで支えていく仕組みを作っていく」と語る。

「地域への働きかけ」後見的支援室では地域へどのように働きかけていくかを検討した。区社協やケアプラザに相談し、地区社協や民児協、地域福祉保健計画（※2）のエリアなどへの働きかけを始めている。

昨年度は、区社協主催の交流学習会やケア

また、一人暮らしの障害のある方。雪の日に、家の前で転んでしまった。何とか家に入ったが、電話で助けを呼ぼうと思っても全く動けない。大きな声で何度も叫んだところ、隣の家の人が気づき、救急車を呼んでくれたこともあった。

川名さんは「障害のある人の地域生活を支援者だけで支えていくには限界がある。同じ地域に住む人たちの力も借りながらチームで支えていく仕組みを作っていく」と語る。

「地域への働きかけ」後見的支援室では地域へどのように働きかけていくかを検討した。区社協やケアプラザに相談し、地区社協や民児協、地域福祉保健計画（※2）のエリアなどへの働きかけを始めている。

昨年度は、区社協主催の交流学習会やケア

また、一人暮らしの障害のある方。雪の日に、家の前で転んでしまった。何とか家に入ったが、電話で助けを呼ぼうと思っても全く動けない。大きな声で何度も叫んだところ、隣の家の人が気づき、救急車を呼んでくれたこともあった。

川名さんは「障害のある人の地域生活を支援者だけで支えていくには限界がある。同じ地域に住む人たちの力も借りながらチームで支えていく仕組みを作っていく」と語る。

「地域への働きかけ」後見的支援室では地域へどのように働きかけていくかを検討した。区社協やケアプラザに相談し、地区社協や民児協、地域福祉保健計画（※2）のエリアなどへの働きかけを始めている。

昨年度は、区社協主催の交流学習会やケア

また、一人暮らしの障害のある方。雪の日に、家の前で転んでしまった。何とか家に入ったが、電話で助けを呼ぼうと思っても全く動けない。大きな声で何度も叫んだところ、隣の家の人が気づき、救急車を呼んでくれたこともあった。

川名さんは「障害のある人の地域生活を支援者だけで支えていくには限界がある。同じ地域に住む人たちの力も借りながらチームで支えていく仕組みを作っていく」と語る。

「地域への働きかけ」後見的支援室では地域へどのように働きかけていくかを検討した。区社協やケアプラザに相談し、地区社協や民児協、地域福祉保健計画（※2）のエリアなどへの働きかけを始めている。

昨年度は、区社協主催の交流学習会やケア

※1 「まるまる座」 ☎
〇四五（四四二）六五九
二FAX〇四五（四四二）
六五九三窓口：月～金・
九時～一七時
※2 「地域福祉保健計画」
住民、事業者、公的機関
が地域の課題解決に協働
して取り組み、身近な地
域の支え合いを進めるこ
とで、誰もが安心して自
分らしく健やかに暮らせ
る地域づくりを目指して
いる。

プラザを通して依頼を受けた地区社協研修で後見的支援制度の説明を行った。また、二ツ橋第二地域ケアプラザ、基幹相談支援センター、区社協、後見的支援室の共催で「障害に関する権利擁護講座」も開催し、民生委員等に協力を呼びかけた。

川名さんは「登録者が地域での見まもりを希望した時に、きちんと応えていきたい」と語る。今年度は登録者の住む地域のサロンにも出向いていくそうだ。

さかえ福祉活動ホーム 河原 亨子さん

河原さん。中庭にて

「私の楽しみは第一にさかえへ通い続けること、第二にウォーキング、第三にお菓子作りです」とおっしゃる河原さん。お子さんがいる。「時間がかかっても徐々に心を開いて、信頼してもらえた時は本当にうれしい」「じっくり待つということを学びました。そこが自分を成長させてくれた。本当に有難いです」と笑顔で話された。

この日のおやつは河原さんお手製のマーマレードジャムがたっぷり乗ったパン。柑橘系のものが苦手だという利用者さんもペロリと食べてしまう程美味しい。「河原さんのお菓子はいつもおいしいんだよ」と教えてくれた利用者さんもある。みなさんの柔らかな雰囲気、職員さんたちの明るさは、「みんなのお母さん」のような河原さんのおかげなのかもしれない。

美味しいおやつ準備中

あゆみ荘 だより

◆チア教室を開催！

去る二月十七日(土)、プロバスケットボールBリーグ『横浜ビー・コルセアーズ チアリーダーズB-ROSE(ビーローズ)』から四名を講師に迎え、余暇活動支援事業『障害のあるお子さんのためのチア教室』を開催しました。



みんなでアイ・ラブ・ヨコハマ

チアリーダールのデモンストラーションダンスでスタートした教室は、チアダンスの基本

的な動き方を学んだ後、チアダンス「アイ・ラブ・ヨコハマ」を練習しました。チアリーダールの優しく丁寧な指導により、最初は緊張した面持ちだったお子さんたちもすぐに体がほぐれ、最後は練習した「アイ・ラブ・ヨコハマ」を見事に踊れるまでに上達し、ご家族の皆さんとともに盛り上がった楽しい時間となりました。

◆あゆみ荘総利用者 百四十万人を迎える

横浜あゆみ荘は、昭和五十九年十一月開所以来の総利用者数が、五月三日に百四十万人を迎えました。

記念すべき百四十万人目のお客様は、千葉県船橋市からお越しの末崎様親子。末崎様親子は、約十五年以上毎月一回あゆみ荘で宿泊いただいております。末崎様には感謝状、花束、記念品が贈呈されました。

横浜あゆみ荘は、今後も多くの方にご利用いただけるよう努めてまいります。



140万人目の末崎様親子

◆和室の洋室化 改装工事が完了

多くのお客様からご要望のあった和室の洋室化について、この度改装工事が完了し、すでに四月七日よりご利用いただけるしております。これで洋室は三部屋となり、より利用しやすくなりました。皆様のお越しを職員一同お待ちしております。



新しい洋室

「あゆみ荘」障害者共同受注総合センター 受注センター わーくる通信

作業を発注した企業

と受注した事業所が、協力して新たに開発した商品について紹介する。

受注作業の拡大

共和開発株式会社(緑区青砥町)は土や肥料などの園芸資材を販売している企業。以前から複数の障害者事業所へ園芸資材の袋詰め作業を依頼していた。

新製品の開発

共和開発の前川さんは、他社との差別化のため、オリジナル商品としてコーヒード豆空袋を使った植木鉢用巾着袋の開発を検討していた。作業についていろいろ相談していたアルカヌエバにミシンがあったので、幸いさんに依頼し、見本を作成することとなった。

アルカヌエバ(緑区北八朔町)も、わーくるからの紹介で作業を受注した事業所の一つ。担当職員の幸地さんは、「どのような作業を受ける時も、アルカヌエバとしての売上げを伸ばす工夫をしている」と語る。袋詰め作業では短時間で多くの個数を詰めるような器具を自作。資材に穴を空ける作業も、ドリルなどを工夫して新たな受注に繋がった。



着用アル巾着袋の製作風景(左)植木鉢用巾着袋の製作風景



単にして縫製するかなどを工夫した。実際に製品化される際には、ブランド力をつけるよう相談して作成した、「Studio Peaberry」のタグもつけることになった(Peaberry: 収穫量の5%程の希少な珈琲豆)。



共和開発カタログの植木鉢用巾着袋が掲載されたページ

新たな受注依頼

巾着袋作成作業は新たに受注した事業所もあり、企業と事業所のコラボで開発した新商品の作業が広がりを見せている。